

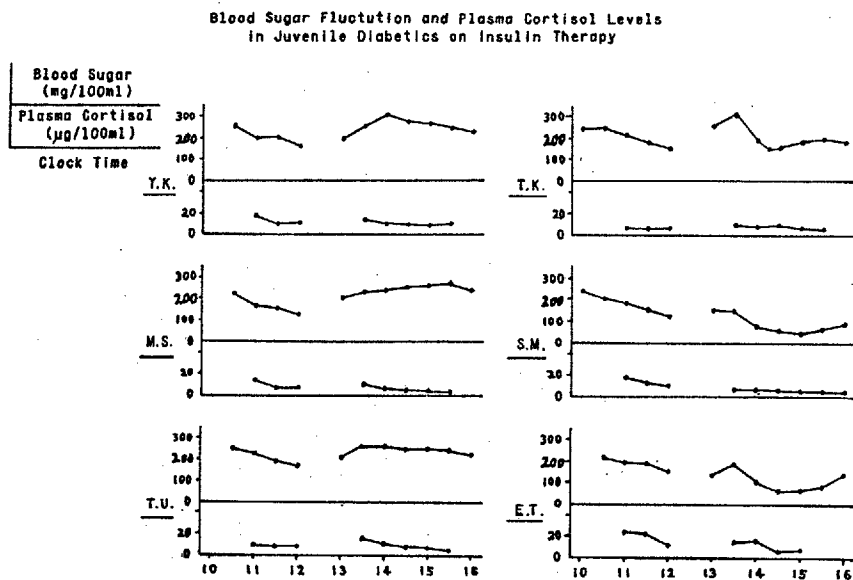


図 2.

東北地方サマーキャンプの実情と糖尿病患者の実態

東北大学医学部 小児科

今 野 多 助
比 佐 成 夫

小児糖尿病の治療上、サマーキャンプ（短期集団治療）が有意義であることが認められ、わが国でも10余年前から毎年開催されてきた。最も遅れていた東北地方でも、ようやく昭和50年から実施され、50年26名、51年29名の患者を集め、患者個人の治療上、ならびに地方の患者の実態を知るうえで、大きな成果があった。

しかし既に丸山らの報告にみられるように、経済上、施設上の問題のために、その実施運営は主催者の個人的努力にまかされているのが実情である。

5 1年度東北地方サマーキャンプの実情を述べて、丸山らの調査研究を補い、併せてキャンプに参加した糖尿病患者の実態を報告する。

1) 開催地、施設、期間；

福島県郡山市の私的医療期間の看護学校の教室および検査室を利用し、8月6日～12日の7日間。

2) 収入状況；

実際の支出1,095,000円中、患者からの参加費427,000円を除く61%の資金はすべて個人、団体の寄付によった。患者の負担はひとりあたり15,000円で約38,000円の費用を要した。

3) スタッフ；

医師10（内科7，心療内科1，小児科2），糖尿病教室の講師3，心理療法士1，体育トレーナー1，看護婦9，検査技師1，栄養士5，学生その他有志15名。

4) 参加患者数；

29（男12，女27）名

5) 患者の出身県；

青森2，秋田4，岩手5，山形4，宮城7，福島3，栃木1，新潟1名。

6) 患者中に占めるキャンプ既経験者の割合；

17/29（59%）

7) 患者の年齢構成；

6～9才5，10～12才10，13～15才10，16～18才4。

8) 患者の発病後の年数；

1年未満1，1年8，2年3，3年5，4年6，5年以上6名。

9) 患者の発病年令；

1～3才3，4～6才7，7～9才5，10～12才7，13～15才7名。

10) 糖尿病発見の動機；

糖尿病症状21，昏睡3，学校検尿4，他の疾患受診の際1名。

11) 現在の治療；

病院に入院中（ベッドスクール，養護学級を含む）4，外来通院でインスリン療法23，食事療法のみ2名。

12) 合併症の有無；

網膜症＋神経障害＋発育障害（ $-2.5SD$ ）1，白内障1。

考 按

他のキャンプ地と同様、特定の施設がなく、しかも宿泊施設でないところを利用したため、日常

生活に大いに不便を感じた。雨天時には行動が制限されるため、その際に利用できる施設があること、晴天の続く時期を選ぶことが必要である。独自の施設をもつことは無理としても、自然に恵まれた場所にある公的施設が利用できるとよい。東北地方は交通の便が悪く、到着出発日として2日を要するので、開催期間は10日程度がよいと思われる。患者の費用は15,000円であったが、交通費などを加えると家庭の出費は大きく、経済的に恵まれぬ者は参加できないことがあるので、基金などによる援助が必要である。キャンプが歴史を加えるとともに、参加経験者が増えるので、キャンプ地独自に、あるいは年毎にテーマを変えることも必要となるだろう。年長女子は特有の悩みをもつので、カウンセリングなどに時間をさく配慮が必要である。学校検尿で発見された患者が4名おり、うち2名は短期間のインスリン治療後、注射を必要としなくなっており、学校検尿の有用性が示された。合併症は2名にみられたが、蛋白尿は全員に認められなかった。

小児糖尿病サマーキャンプにおける調査（続報）

大阪市立大学医学部 小児科

一 色 玄

1) 糖尿病児の母子関係について

糖尿病児は様々な心理的な問題を持っているためその心理指導の非常に重要なことは常に指摘される所であるにもかかわらず、その母子関係の調査はあまり行なわれていない。我々は糖尿病児とその母親の心情を理解し、具体的な援助の在り方を考えるため、小児糖尿病サマーキャンプ参加者48名について「3つの願い」についての自由記述を行なわせた。またその母42名（2名の父と1名の姉を含む）について病気である自分の子供について、および病気の子供を持つ自分について各10項目の自由記述を制限時間内に簡条書きにさせた。病児と母親の記述を整理すると表1～4のようであった。まず病児の「3つの願い」からは病気治療への願いが全体の54%を占め、他の願いよりも有意に多かったが、その際病気を治してほしいとする受身の構えが濃厚であり、また力の強い万能者へのあこがれ、志向が多い点が問題である。年令が進むにつれて自分の生活のことを現実的に考えてくるかしかし他方病気治療への願いも切実となっている。母親については罪償感、子供に対する心配、それと密着する自責感が非常に強く、中には拒否的な感情もみられる。また子供に対する心配、期待、親としての苦しみ、悔みが不懺感を土台にして

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

小児糖尿病の治療上,サマーキャンプ(短期集団治療)が有意義であることが認められ,わが国でも 10 余年前から毎年開催されてきた。最も遅れていた東北地方でも,ようやく昭和 50 年から実施され,50 年 26 名,51 年 29 名の患者を集め,患者個人の治療上,ならびに地方の患者の実態を知るうえで,大きな成果があった。